



笑顔のひろば「第16号」

平成23年11月1日

発行

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

# NST公開セミナーを開催して



院内・法人内に向けて、NST (Nutrition Support Team の略) の啓蒙活動の一環として、今年度のNST公開セミナーが九月二十六日(月)(8:00から16:30)、五十三名の参加で川崎協同病院の七階会議室で行われました。

参加者の内訳は、看護師…21名  
リハ…13名 ケアワーカー…6名  
事務…5名 医師…4名 SCW…1名  
歯科医師…1名 歯科衛生士…1名  
薬剤師…1名でした。

チエアマンの澤田医師より今回の学習会の目的を含めて挨拶がありました。講演内容として、一つ目は、回復期リハビリテーション病棟が毎日のように行っている「嚥下体操」で、実演を織り交ぜて作業療法士より講義をして頂きました。看護師だけではなく、ケアワーカーも体操の仕方とともに、理由も一緒に理解してほしいという意図で行われましたが、感想文には、「嚥下体操が再確認できた。」「誤嚥防止の嚥下体操が効果的であることが分かった」とか「パタカ」「パタカ」の意味がわか



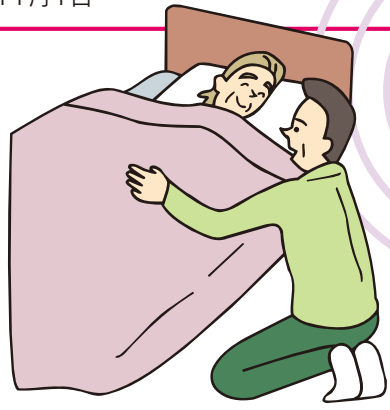
った」という声も寄せられました。二つ目としては、歯科医師と歯科衛生士より「口腔ケア」についての講義と口腔ケアの仕方についてお話をさせて頂きました。口腔ケアのVTRでは、「口で食べられなくなると口の中があんな風になってしまうのか」とかなり衝撃を受けた感想が寄せられました。また、「口腔内の細菌数が多く、誤嚥性肺炎のリスクとしていかに口腔ケアが大切か理解できた」などの声も寄せられました。

今回は、隣の生協歯科クリニックと合同で開催することが出来ました。現状としては、CV挿入件数以外の病院に比べ、六倍位になっており、経腸栄養を普及する上でまだまだ啓蒙活動が必要です。

NST担当 副看護部長  
濱田 ふき子



# 終末期とDNRの指針の改定



川崎協同病院の医療倫理委員会では、二年をかけて終末期医療とDNRの指針の改定に取り組んできました。

歴史的には二〇〇二年に公表した「気管チューブ抜去・薬剤投与死亡事件（以下「事件」）」に端を発し、医療倫理委員会の発足、そして川崎協同病院としての終末期医療、DNRの指針の作成へとつながります。制定後五年以上が経過し、現在の情勢と照らし見たときに、指針の記載内容が不十分であることや実務上の運用において終末期とDNRとの境界があいまいになっている現状などを踏まえての改定でした。

本来終末期であることとDNRの適用であることは、重なる部分はありません。とにも患者の尊厳を守り、自分の望む医療を受ける権利にかかわるところでは共通していますが、実際に終末期かDNRが判断するところにおいて違いが出てきます。今回の改定ではこの部分を改めて明確化し、実際の運用で混乱が生じないようにしました。

また、終末期やDNRであることの判断を複数で行うということにより前面に押し出した内容となっております。そもそも、「事件」後に外部評価委員会からの報告を受けて決めた病院としての原則は、「一人を決めない、一度で決めない」でした。それには、一人の判断による暴走を食い止めるという意図が含まれています。今回の改定でも充分その意志を反映させました。

他にも細かな改定を行いました。この二つが主要な点です。これに合わせて確認書や手順書の整備も八月から運用を始めています。今回の改定によって、今まであやふやだった終末期とDNRの区別をしかりとつけ、より患者様の意向に沿った医療が提供できるよう努力していきたいと思っています。

事務局 会田 佳成

# 二〇二二夏 看護体験

台風十二号がゆっくりと通り過ぎると共に、いつの間にか夏が終わってしまったように感じます。

夏の終わりは、私たち学生担当にとっては肩の力がスーッと抜ける、そんな時期です。なぜなら夏の間は、学生に会わない日はない！と言っているほど毎日看護体験に沢山の学生や社会人の方がいらっしゃいます。参加される方は、将来看護師になりたい、と決意された方もいれば、看護師の仕事ってどんな仕事か知りたい、と将来の夢を模索中の方もいます。いずれにしても、この看護体験でその人の人生を左右してしまうかもしれない。そんな仕事だからこそ、最終日には力が抜けて、少しホッとします。



看護学生担当 宮下 未希

もちろん！私たちの目標は「参加して良かったー！看護師になりたい！」と思ってくれる方が一人でも多く出るような体験作りをすることです。九〇名の方がこの夏の看護体験に参加してくれました。記念に撮った写真に笑顔が多く写っていたことが、私たちのやり甲斐です！数年後：高校生だった方々が、各々の看護学校の実習を着て、この夏と変わらない笑顔を見せて来てくれたら、私たち学生担当はどんなに幸せでしょうね？



今年もみんな元気で楽しそう！

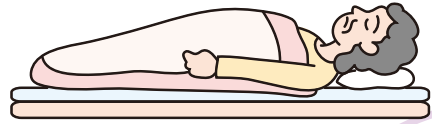


# 睡眠時無呼吸症候群の検査に 力を入れています

睡眠時無呼吸症候群(以下SAS)は睡眠中に気道が閉塞するなどして呼吸が停止または低下する疾患で主に肥満、小顎症などが原因になります。人生の3分の1は睡眠に費やしていますがSASに罹患していると良質な睡眠がとれず高血圧や虚血性心疾患、糖尿病などを高率に合併します。

いびきをかく人は日本で約二〇〇万人、そのうち約三〇〇万人がSASの可能性が大と言われています。年々増加の一途をたどっているSASですが、治療を受けている方はわずか二〇万人程度。ほとんどの方がSASという病気を知らずに放置したまま。睡眠中のことなので本人は気付かないし自覚症状がほとんどないので、深刻な病気とは気づいていないのが現状です。SASは新聞や報道でも多く取り上げられ、睡眠時無呼吸(SAS)検査キャンペーンなども行われていますがまだまだ認知度は低く見逃されています。現在の現状です。

当院では二〇〇九年からSASの検査を本格開始しました。以前から検査は行っていました。年々増加する程度しかありませんでした。そこでSASユニットチーム(医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技師、事務で構成)を立ち上げ潜在している患者さんを見つけて出し治療に導くよう取り組みを開始しました。



た。ホームページのリニューアル、看板・ポスターの設置、近隣へチラシ配り、患者様向けの勉強会の開催等を行い、二〇一〇年九月にはSAS検査専用の部屋もリニューアルし快適に検査して頂けるようになりました。検査

件数も二〇一〇年には九〇件と大幅に増やすことができて現在八〇名の患者様が持続陽圧呼吸療法(以下CPAP)療法をしてあります。しかしSASの診断がついても離脱してしまう患者様もあり、今後はSAS、CPAPの詳しい説明、導入後のアフターフォロー、患者様が気軽に相談できる窓口としてCPAP専門外来を開設し更にきめ細やかな対応をしていきたいと考えています。また日本循環器学会から循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドラインが出されSASと循環器疾患の係わりが明確になって行きました。いびきをかく人だけがSASの疑いとはならず、循環器疾患の合併でSASが潜伏しています。一人でも多くのSAS患者様を見つけて出し治療に導くように今後も取り組みを強化していきたいと考えています。

臨床工学科 科長 根岸道哉

# 高校生 夏の一日医師体験

毎年恒例の高校生一日医師体験ですが、今年は川崎協同病院に十五名が参加しました。

各職場では、それぞれの業務を紹介するために趣向を凝らした体験を用意してくれています。手術室ではオペに入る前に行う手洗いやガウン着用の体験の他、手術台に寝て无影灯に照らされたりしますし、検査科では工コーの機械で(職員のお腹の中を見たりスパイロで肺機能をはかたりました。実際の業務を体験することによって、病院では医師だけではなく大勢の職種によって成り立っていることがわかります。

また、医師につく時間では、カンファレンスに参加したり聴診器で胸の音を聞いてみたり、処置や採血の様子を見学したりしました。高校生

からは大学時代の様子や受験勉強のしかたなど、将来を見据えた質問も出され、非常に有意義な体験となりました。

今年は神奈川民医連内の多くの診療所も受け入れ、全体で八六名の参加となりました。ここで参加した人が医学部を目指す気持ちを高めてくれ、将来日本の医療を支えていく一人になってくれると良いと思っています。

医学生担当 会田 佳成



なるほど...



手指衛生は基本です。



# I N F O R M A T I O N

## 楽しかった！ 美味しかった！！

## 院内夏祭り



今年で3回目となった夏祭り。

当日8月25日は朝からいやな天気が続いていました。ジュースに駄菓子、大きなスイカ、風船ヨーヨーだってすでに準備万端。でも雲はどんより。「せっかく準備したのに…」「患者さんたちも楽しみにしているのに…」でも大丈夫。無事に開催することができました。

はじめは病棟の食事時間と重なってしまい、出足はよくありませんでした。しかし、外から聞こえる音楽や子どもたちの笑い声につられてだんだんと人も集まってきました。

風船ヨーヨーに金魚釣りコーナー、くじ引き、ミニボーリングと患者さんも院内保育所の子どもたちも大喜び。大きな口で医師・看護師・患者さんがスイカを美味しそうに食べている姿はとても印象深く、良い企画が出来たと考えています。

今後は職員の出し物(?)などの企画にも挑戦したいと思います。

事務次長 相原 裕之

### 川崎協同病院 夏祭り



先日、私は法人研修に参加し、川崎の公害について学びました。公害については、学生時代に授業で習う程度で、学びを深める機会がありませんでした。今回研修に参加し、公害問題は過去の物ではなく今も尚残っており、苦しんでいる方が大勢いることを知りました。ぜん息発作がいつ起こるか分からないため、定職に就くことができない方や解雇となる方もいるそうです。『自分も川崎で生まれ育っていたらぜん息になっていたかもしれない。』そう思うと他人事とは思えませんでした。

研修の項目に『川崎の空を眺めよう』という項目があり、川崎マリエンの展望台から初めて川崎の街の様子を見ました。街と空との間には灰色の層ができており、どんよりとした空が広がっていました。講師の方から、川崎市の実環境基準が厳しくなってきたため、工場が千葉県に移るようになってきているとお話がありました。確かに、千葉県の海岸沿いにも多くの工場が立ち並んでいました。川崎市では工場から排出される有害物質により大気汚染が進み、多くのぜん息患者さんを生み出しました。患者さんの中には、身体的・精神的苦痛から逃れるため、自ら命を絶つ方もいたそうです。川崎から見える千葉県の工場地帯を眺めながら、『川崎で多くのぜん息患者さんを生んだ歴史を繰り返さないで欲しい。』と願う思いでした。『誰もが見上げると笑顔になれる。そんな青空が全国に広がったらどんなに素敵なことだろうと思います。次の世代に青く澄んだ空を見せてあげられるよう、ゴミの分別をきちんと守ったり、環境に優しい物を利用したりと自分ができる事から心がけていきたい』と思います。

地域連携室 MSW  
田中文字

編集後記